

登録コード:MH304300 開講年度:2026		授業科目区分	専横専門科目 必修
科目名	理学療法研究法【20M～24M】 Research Methods and Statistics		
担当教員	西澤 公美 他 百瀬 公人・横川 吉晴・北川 孝・青木 薫		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻 / 3学年 前期 水曜・1時限 水曜・2時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科111講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	科学的根拠に基づいた判断を行うために、論文の読み方や解釈方法、基本的な解析技術を習得し、実施できる
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。	⇔	臨床で遭遇する疑問に対して科学的に検証するための考え方や手続きを系統的に理解し、説明できる
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	科学的根拠に基づいた判断を行うために、論文の読み方や解釈方法、基本的な解析技術を習得し、実施できる
授業で学べる「テーマ」	その他		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	国内外の理学療法の基礎的・臨床的研究に触れ、理学療法における研究の意義と概要、そして、具体的な進め方の要点について学修します。また、学際領域との共同研究の重要性について学びます。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士、医師としての実務経験を活かして講義を行います。 本授業は、1年次に学んだ「運動療法基礎論」、「中枢神経解剖学」、「運動学」の知識を前提とし、2年次後期の「運動学習理論」、「臨床神経学」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、3年次に学ぶ疾患別の理学療法、ならびに、4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。		
授業計画	第1回 (4月15日) 研究のプロセス・EBPの概念・PICO (西澤) 第2回 (4月22日) 研究の倫理的考慮 (eAPRINの実施まで) (青木) 第3回 (4月30日) EBPの実践方法・研究デザイン・測定の信頼性と妥当性 (西澤) 第4回 (5月13日) 研究論文の読み方、文献検索法① (横川) 第5回 (5月20日) 文献検索法② (横川) 第6回 (5月27日) EZRを用いた統計解析① (横川) 第7回 (6月3日) EZRを用いた統計解析② (横川) 第8回 (6月10日) EZRを用いた統計解析③ (横川) 第9回 (6月17日) SPSSを用いた統計解析④ (横川) 第10回 (6月24日) 理学療法におけるデータサイエンス；基礎 (北川) 第11回 (7月1日) 理学療法におけるデータサイエンス；演習 (北川) 第12回 (7月8日) EBP作成作業① (西澤) 第13回 (7月15日) EBP作成作業② (西澤) 第14回 (7月22日) 発表会① EBP (PICO) (担任、全教員) 第15回 (7月29日) 発表会② EBP (PICO) ・授業アンケート (担任、全教員)		
授業の進め方	講義、文献講読会、グループ討議を通じて、理学療法に関する先行研究を概観し、研究法の基礎について学習します。		
テキスト、教材、参考書	参考書： Jerry R. Thomas (著), Jack K. Nelson (著), 田中 喜代次 (翻訳), 西嶋 尚彦 (翻訳). 身体活動科学における研究方法 (単行本). ナップ, 2004.		
成績評価の方法	レポート、EBP発表会のプレゼンテーション内容等を総括的に評価します。 総括的評価の配分は、レポート40%、プレゼンテーション内容60%とし、総得点の60%以上を合格とします。レポート、プレゼンテーション資料の作成過程で、測定の方法、文献検索、実験計画、研究計画などの行動目標を達成できているかどうかについて確認します。		
成績評価の基準	レポートおよびEBPプレゼンテーションの内容を以下の成績評価基準に基づいて評価します。 やや不十分だが最低限の研究法の理解に基づいた内容である。 「水準にある」：可		

成績評価の基準	基本的な研究法の理解に基づいた内容である。 「やや上にある」：良 先行研究をある程度参照した上での研究法の理解に基づいた内容である。 「かなり上にある」：優 先行研究を十分に参照し、独自の創意工夫を組み込んだ上での研究法の理解に基づいた内容である。 「卓越している」：秀
事前事後学習の内容	「研究法」は、信頼性と妥当性のある理学療法領域の研究を実施するためにも、論理的な理学療法を展開していくためにも、非常に重要な概念となります。講義や演習の内容を参照するとともに、関連する文献やテキストから情報を主体的に集め、文献の読み方、テーマの設定の仕方、実験計画の立て方、統計解析方法、研究における倫理的配慮などの要点について、主体的に学習を進め、研究法の概要と基本的な進め方についての理解を深めていってください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間15時間（1時間×15回）＝ 45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問、相談があれば、下記にご連絡ください。 西澤 公美：hitnishi@shinshu-u.ac.jp 南校舎4階 西澤研究室 オフィスアワー 随時（要事前連絡）